

2019

8

vol.544



<https://www.yuai.jp/>

昭和63年1月18日第三種郵便物認可
8月号/令和元年8月1日発行

あなたがいる、わたし、がある。

ゆうあい

特集

「ねお・はろう改築レポート」



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

運営委員に聞く!!



石戸谷 浩二 (社会福祉法人侑愛会事務長)
Isidoya Koji

施設整備と法人運営

運営委員 施設長会の中から選ばれた運営会議のメンバー

昨年度までの10年間ににおける大型整備としては、ゆうあい会診療所の改築、おしま菌床きのこセンター培養棟増設、明生園本園増築、侑愛荘新棟増築、ボンコパンVI新築、ねお・はろう移転改築などであるが、いずれも機能を向上させ快適な暮らしを送ってほしいとの法人全体の想いがつまっている。

多くの国庫・北海道費補助をいただくほか、事業費の自己資金以外では、中央競馬馬主社会福祉財団、日本財団、清水基金、JKA（競輪・オートレース）、大友福祉振興財団他からの民間助成や多額の寄附を頂戴し実施できている。

この整備額の多寡を判断するのは、個々人でもちがってくるが、事業所からすると、実施した整備より、更により良い機能的な環境整備を実施したかった、現状復旧など必要最低限の仕様なので、もつと費用を掛けたかった、予算の関係で諦めざるを得ない仕様変更も有る、との思いが強い。

事業を継続していくためには、ソフトもハードも両方たいせつで、ソフトでは、研修・研究室委員会が中心となった各種研修会の開催、事業所毎では、独自の学習会を実施し、人材育成に励んでいる。また、法人独自で開催している自閉症支援のためのワークショップや2人の講師を招聘し実施しているコンサルテーション等では、自閉症の利用者が増加している状況のなか、その特色に合わせた、より専門的な支援を事業所全体で取り組んでいけることを目指している。そのために、基礎となる

知識やノウハウを身につけた人材を育成することを目的として取り組み、特に若い職員の力量が向上しているとの報告を受けている。

ハードでは、中長期整備計画を毎年見直し、昨年は、ねお・はろうの移転改築、今年もつくしんぼ学級の機能充実に向け、児童発達支援事業「おしま地域療育センター」の移転、これまで5年間を要し、計画してきた「障がい児相談支援事業」、「日中一時支援事業」の連携した運営を同一敷地内で行うための増築を実施するなど、長いスパンを考慮しつつ、機能の維持や向上に向け取り組んでいる。

法人運営における施設整備の悩ましいところは、財源である。助成金、補助金や寄附金などの援助もあるが、大半は、自己資金である。限りがあり、就労支援事業等以外において営業努力による収入増の見込めない社会福祉法人の事業収入を費目別に毎年どのように配分していくのか苦慮している。また、次年度以降の事業計画を見据えながら整備費用の自己資金分を数年掛けて積み立てていかなければならないことも常に気にしている。

いちばん費用の掛かっている人件費は、歴史の長い社会福祉法人ほど嵩む傾向で、収入の7割弱を要し、年額は10年間の整備費に匹敵している。それでも年間を通じ職員を満度補充できていないのが、ここ数年の現実である。社会福祉協議会や人材バンク等が主催する就職ガイダンスへの積極的な参加や個々の大学・専門学校、短大

等へ出向いて行う、就職説明会開催の拡大、ウェブサイトの活用等々積極的な人材確保のための活動を担当施設長が中心となつて展開してきているが、この取り組みを、継続、更に強化していかなければならない。

決算後に、収益性、生産性、健全性、成長性などの分析を実施し、過去複数年と比較、特に、対前年との違いを意識している。

バランス良くできれば良いのだが、その年ごとに事情が有り、目標指標通りにはならないし、理想通りに治まるはずがない。単年が目標とは違つていても時間を掛けて組み立て直していくことができれば、安定した運営を継続していくことが出来る。中長期の経営を意識して短期の運営に取り組むバイフォールカルアプローチは、何れの社会福祉法人も実践している。

整備に伴う手続きは、多岐にわたり、その上とても煩雑なのだが、設備の老朽化、利用者の高齢化、障がいの多様化に即した日中活動の充実、入所施設の浴室やトイレ設備などの使いづらさ他が整備の課題として残つていて、今後も、整備計画の実施時期、規模等を考慮しながら、法人第4期5か年計画に則り、段取りよく進めていきたい。なお、現在の整備計画にあがつている要望額は、法人でまかなえる額を大きく超えている。悩みは尽きない。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

視 覚的な手がかり スケジュールの再構造化

ガイドブック「TEACCH再構造化の手引き」を参考にしたり、独自の構造化シートを使用しています。スケジュールやワークシステムがうまく機能していない方、スケジュールなど視覚の手がかりがない方への構造化を行うことで、より自立的に生活してもらえるように工夫してきました。

写真①②: スケジュール 写真③: 洗面、歯磨きの手順書

写真④: 手順書を使用して洗面 写真⑤: 絵のコミュニケーション



参考文献: 腹巻 智子
「TEACCH再構造化の
手引き〜スケジュールと
ワークシステムを最適
化するためのガイド」
(ASDヴィレッジ出版・
2007年)



日 課や 家事活動

環境が変わることで、家事活動が増えたり内容が変わる可能性を考慮して、日課を見直してきました。

写真①: モップかけ

写真②: タオルたたみ



寮 構成

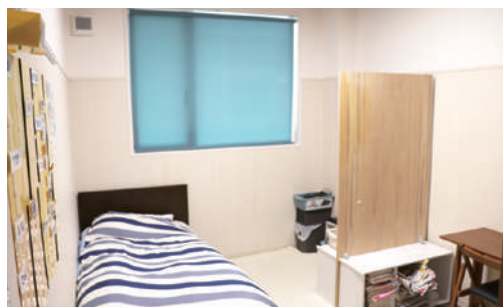
利用者の方たちの構成や、職員の配置について多くの時間を費やしました。利用者の方たちにとっても、職員にとっても大きな混乱が生じにくいように、異動による変化は最小限としました。個別支援室(写真)は他者との関わりが苦手な方、将来的に地域生活を想定している方など、どんな目的で、どんなに生活してもらうのかを明確にしました。



右手前のドアはトイレ、右奥側のドアは洗面所と浴室です。左側ドアは居室、突き当たりが玄関です。

居 室のレイアウトや 余暇の過ごし方

居室が全て個室になることで、複数部屋では出来なかったレイアウトや余暇時間の過ごし方についても検討してきました。



ねお・はろう改築レポート

今年の3月、ねお・はろう念願の新棟が完成しました。旧本園舎は前身の第二おしま学園から数えて41年が経過して老朽化が著しく、また建物構造が児童施設基準であるため、一部屋を複数で共有するなどの状態となっていました。

ねお・はろうでは、改築に向けて検討委員会を設置して検討を重ねてきました。利用者の方たちが新しい場所で生活するにあたって必要とされた準備や支援、そして現在の生活の様子についてご紹介いたします。

新 しい 環境では

- 洗面所・手洗い場(写真①)は、車椅子に乗ったまま洗面等ができるように設計されています。自動水栓(自動で水が出る)のため、なかには戸惑う方もいたようです。
- 生活棟内は全面、段差のないバリアフリー構造です。浴室(写真②)、玄関などはドアの開口も広く、車椅子の方でも移動がしやすくなっています。
- 各ユニット内は同じ構造のため、自分のユニットや居室、下駄箱(写真③)について迷う方がいました。絵や写真、文字など視覚的な手がかりにより分かりやすくなるような工夫をしています。
- 日中活動棟との距離が近くなったため、単独で移動できる方が増えました。
- 廊下(写真④)には手すりがあります。





社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp